

バカガイの産卵期調査

石田 陽 司 ・ 小 島 博 ・ 斎 浦 耕 二*

那賀郡那賀川町今津地先では昭和50年代後半頃からバカガイの漁獲量が急増し、現在も重要な地位を占めている。それにもかかわらず、徳島県沿岸のバカガイについての知見は、生物学的にも資源学的にも殆どない。今回これらのバカガイの産卵期を明らかにするための調査を行ったので、ここに報告する。

1. 材料と方法

那賀川町今津地先の定点(図1)において、1988年7月5日から1989年1月21日にかけて、10節目の網をとりつけた貝桁網を用いて、計6回試験操業を行った。その際採集されたバカガイの一部を約10%ホルマリンで固定・保存し、試料とした。実験室において、そ

の値及び各成熟段階の占める割合を図2に示す。

群成熟度の値は、7月上旬には0.16であったものが下旬には0.45まで上昇した。その後、9月上旬にいったん0.20まで低下した後、10月上旬には0.95まで急増した。11月中旬には逆に0.31へと急激に低下し、1月下旬の値は0.37であった。

各成熟段階の占める割合から群成熟度を見ると、7月下旬の上昇とその後の低下及び10月上旬の上昇とその後の低下は、共に放卵直前と思われる成熟段階Aの割合の増加・減少による。従って、今回の調査期間内では、7月下旬から9月上旬にかけて及び10月上旬から11月中旬にかけてが産卵期であると考えられた。前者は小さは、後者な主要な産卵期であろう。

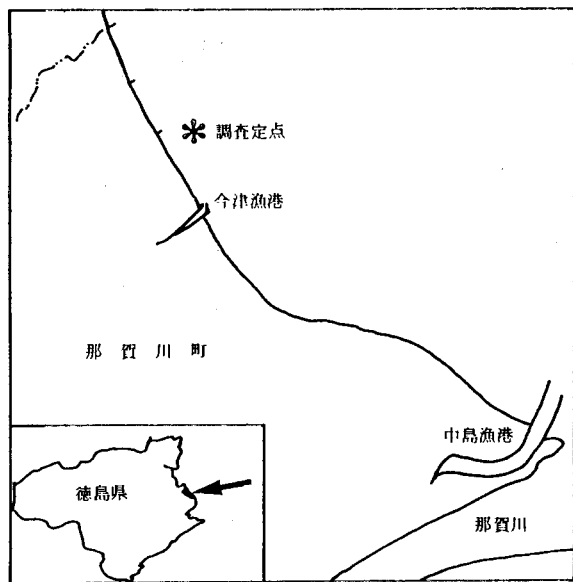


図1 調査地点

の生殖腺を肉眼で観察し、安田ら(1945)の方法により群成熟度を求めた。そしてその値から産卵期を推定した。

2. 結果と考察

生殖腺の観察に用いたバカガイの採集日、個体数及び殻長を表1に示す。また各採集日における群成熟度

表1 観察に用いたバカガイ個体数及び殻長

採集日	観察個体数(個)	殻長(平均) (mm)
88. 7. 5	35	49.3 - 64.7 (56.5)
88. 7. 26	28	52.4 - 76.8 (60.5)
88. 9. 2	23	51.1 - 64.0 (58.7)
88. 10. 4	10	56.5 - 66.8 (61.5)
88. 11. 17	26	52.6 - 85.0 (67.5)
89. 1. 21	31	50.8 - 73.4 (64.4)

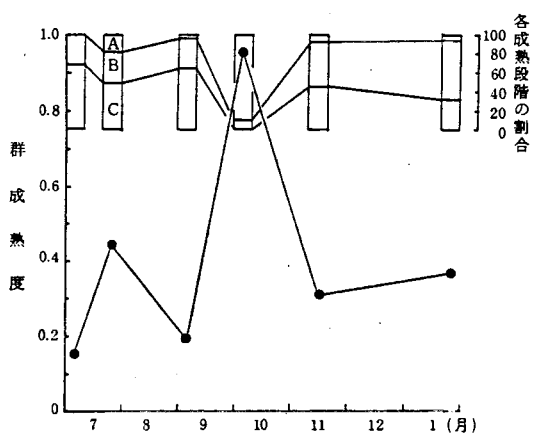


図2 群成熟度と各成熟段階の割合の季節変化
成熟段階の分類(A, B, C)は安田ら(1945)による。

福岡県豊前海南部沿岸において調査を行った藤本・小林(1987)は、5月下旬から6月、7月から8月及び10月下旬から11月に群成熟度の低下があり、そのうち秋のものがいちばん低下が大きいと述べているが、後2者については今回の結果と一致する。この結果と同様に、本県においても春期にも産卵期が存在する可能性があり、今後2月から6月にかけての調査を行う必要があるだろう。

3. 参考文献

藤本敏昭・小林 信(1987)：バカガイ漁場形成要因の解明－Ⅲ．大規模砂泥域開発調査(豊前海域)昭和61年度調査報告書，119-146

安田治三郎・浜井圭三・堀田秀之(1945)：アサリの産卵期について．日本水産学会誌，20(4)，277-279